

# へっぴり又作

北茨城市

昔ある村に、おならばかりしている若者がいました。この若者を人びとは「へっぴり又作」と呼んでいました。

又作はおならばかりしますが、明るく気持ちのよい性格で、村人にとっては、このおならの力を重宝するところもありました。

ある時は、畑で綿を作っている村人が、

「又作や。でっかいおならをするっていうが、おらの綿畑の綿を一度に吹っ飛ばせないか」と、相談すると

「そんなこと、造作もねえ」といって、又作は綿畑に尻を向けて「ぶうーっ」と力いっぱいおならをしました。驚くことに、綿はバタバタとあつという間に落ちました。

これは素晴らしいと、栗林を持っている村人が「又作、いくらおめえのおならがでっかくても、栗は落ちめえ」と言うと、又作はまた「栗を落とすのなんて造作もねえ」と、栗の木に尻を向けて「ぶうーっ」とやります。すると栗はポロポロと音を立てて落ちていきます。



また、ある村人が「又作、柿は無理だろうか」と言えば、「なんの柿なんか一発だよ」と尻を向けて「ぶうーっ」。

こうして又作は、なんでもおならの力であつという間に落としてしまいます。

そんな又作でしたが、ついにお嫁さんをめとることになりました。

村の若い衆が「又作、今回は畑や木の実を取るのとは違うんだぞ。いくら又作に度胸があるからって、祝言の日に嫁さんの前じゃおならはしないでさう」とからかうと、又作は「造作もねえこつた」と胸を張りました。

つつがなく式が進んでいた時です。新郎新婦がお酒を酌み交わす三三九度の時、又作は大きく息を吸いこんで「おうっ」と気合いを入れました。その瞬間、会場に大きな音が響きました。なにごとかと参列者がキョロキョロすると、お嫁さんの姿が見えません。

これは大変だと大騒ぎになり、村中でお嫁さんを探すと、お嫁さんは里の方まで飛ばされていました。そうして、びっくりしたお嫁さんは、もう又作のところへはもどって来なかったという事です。

〈参考文献〉茨城の民話 第一集 日向野徳久編(未来社)



「運ぶ」を支え、地域社会を笑顔にする

**ISUZU 茨城いすゞ自動車株式会社**

本社 / 〒310-0063 水戸市五軒町1-2-5 ☎029-225-1215(大代) <https://www.ibaraki-isuzu.co.jp>